

JAEF REPORT

令和5年4月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

【目次】

- ◆ 第28回理事会を開催、令和5年度事業計画・予算を承認
- ◆ 令和4年度講師派遣実績
- ◆ 令和5年度「自動車技術」に関する講師派遣 募集開始

- ◆ 副教材「クルマを通じて社会を考える〈デジタル版〉」完成・公開
- ◆ 動画学習サイト「早わかり!クルマ塾」に15本のコンテンツ掲載

第28回理事会を開催、令和5年度事業計画・予算を承認

…3月15日

財団運営

財団は、3月15日に芝パークホテルにて第28回理事会を開催した。同理事会では令和4年度の事業進捗状況が報告されると共に、令和5年度の事業計画・収支予算案等が承認された。

同事業計画においては、自動車教育担当教員の高齢化・人員減少、電動化や自動運転など自動車技術の高度化を背景とした教育内容の深化といった様々な環境の変化を踏まえ、支援活動の重点を従来の教材提供などのハード面の支援から、技能・知識・ノウハウの提供を通じたソフト面の支援へとシフトする。とりわけ、高等学校に対し自動車の最新技術に関する講師派遣（出前授業）の活用を積極的に働きかける他、教育現場のICT化に対応した自動車技術・交通教育の支援、普通高校を中心とした「探求学習」の支援などに取り組む。

1. 自動車の最新技術に関する活動強化

- ・ 既存の講師派遣メニューの情宣強化、利用件数の拡大 (25件⇒40件)
 <自販連支部との連携>
- ・ 関係団体と連携したPIUS (小型電気自動車) 特別講習の実施
 <整備振興会との連携>
- ・ 電動車両の技術に関するメニューの検討
 <教育団体との連携>

2. ICT化対応の自動車技術・交通教育素材の拡充

- ・ 自動車技術に関する解説動画の拡充 (R5: 必要なコンテンツの洗い出し)
- ・ 「探求」授業向け支援 (R5: コンテンツ体系の検討)

3. 教育現場と連携した財団活動の広報強化

- ・ 開発教材の利用促進 (HPの全面改修、教育団体(PLI含む)との連携)
- ・ 講師派遣実施校との連携による情宣活動強化

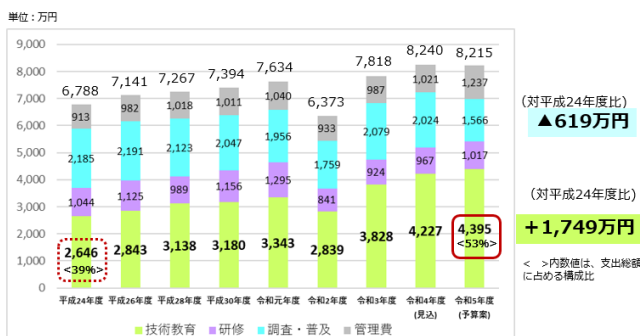
事業ごとにみていくと、技術教育支援事業においては、自動車の最新技術に関する活動（講師派遣等）を強化し、またICT化に対応した自動車技術に関する解説動画の拡充を図る。

研修事業においては、高等学校の先生方を対象とした教員研修会を開催し、最新の自動車技術や交通技術、交通安全対策について学ぶ機会を提供する。また、高等学校などへの出前授業として専門講師を派遣し、モビリティ業界の社会的使命である交通安全教育を中心に全国の高校生へ広く受講機会を設ける。

調査研究においては、基礎的情報収集として国内外の調査、及びクルマに対する高校生意識調査を実施する。

普及啓発事業においては、財団活動に関する各種情報のアクセシビリティを向上させるべく、ウェブサイトの全面リニューアルを行う他、SNSの更なる活用による情報発信に取り組む。また、動画学習サイト『早わかり!クルマ塾』のコンテンツ充実に加え、その告知活動を強化する。

収支予算については、収入面では賛助会費の減額が続いているものの、基本財産運用の工夫により高等学校への従前に劣らぬ支援を行うことが報告された。また、予算の制約がある中で、財団事業の要である技術教育支援事業の一層の強化を図るため、調査・普及啓発事業については活動を縮小し、メリハリのある支出計画（下表）としている。



若者の「クルマファン」作りに向け、引き続き皆様のご支援、ご協力を賜りたく、よろしくお願いたします。



▲第28回理事会の様子

INFORMATION

4~6月予定

- 理事会、評議員会を開催 5、6月
- 令和5年度JAEF研修会参加者募集開始 5月下旬
- 令和5年度自動車技術教育用教材提供の公募開始 6月上旬
- 令和5年度講師派遣を実施 4月~6月

令和4年度講師派遣実績

研修

令和4年度の講師派遣実績は、開催件数286件（前年差+4件）、参加者79,661名（同▲8,720名）となった。コロナ禍の影響が続く中、令和3年度より「交通安全」「環境・交通技術」にて本格的に展開したオンライン形式の研修会は56件と前年同様に併用、活用されたことで、キャンセルを29件（同▲56件）と大幅に抑制することができた。

全286件の分野別内訳は以下の通り。

分野	件数	対象
1) 交通安全	254	社会科系及び生徒指導担当の先生並びに生徒
2) 環境・交通技術	8	
3) 自動車技術	24	主に工業系の生徒

研修会メニュー別実績件数は以下の通り。

1) 交通安全：計254件

ドライバー・自転車・歩行者から見た交通安全	183
自転車を取り巻くリスクとその責任	34
夜間の交通安全対策	25
交通事故を起こして問われる責任	9
二輪車（バイク）の交通安全	3

2) 環境・交通技術：8件

地球温暖化防止と自動車技術	7
交通技術と社会のあり方(自動運転技術の現状と方向性)	1

「交通安全」「環境・交通技術」の高評価率（※）は94%と、令和3年度から2ポイント向上した。講師の方が研修前に各校のニーズを把握し、事前に撮影した登校風景や学校周辺の危険箇所を用いて関心を高める工夫を行うなど、従前以上にご尽力いただいたことによるものである。

※高評価率：実施報告書で5段階評価中「大変良かった」「良かった」の合計

3) 自動車技術：計24件

最新技術：生徒対象	22
整備技術：教員対象	2

参加した生徒が最新技術を搭載した実車に触れると共に、現場で整備業に携わる講師ならではの話に熱心に聴き入るなど、自動車に対する興味関心を引き上げる研修会となった。

講師については、全286件のうち、278件を地元の自動車教育推進協議会メンバーに担当いただいた。

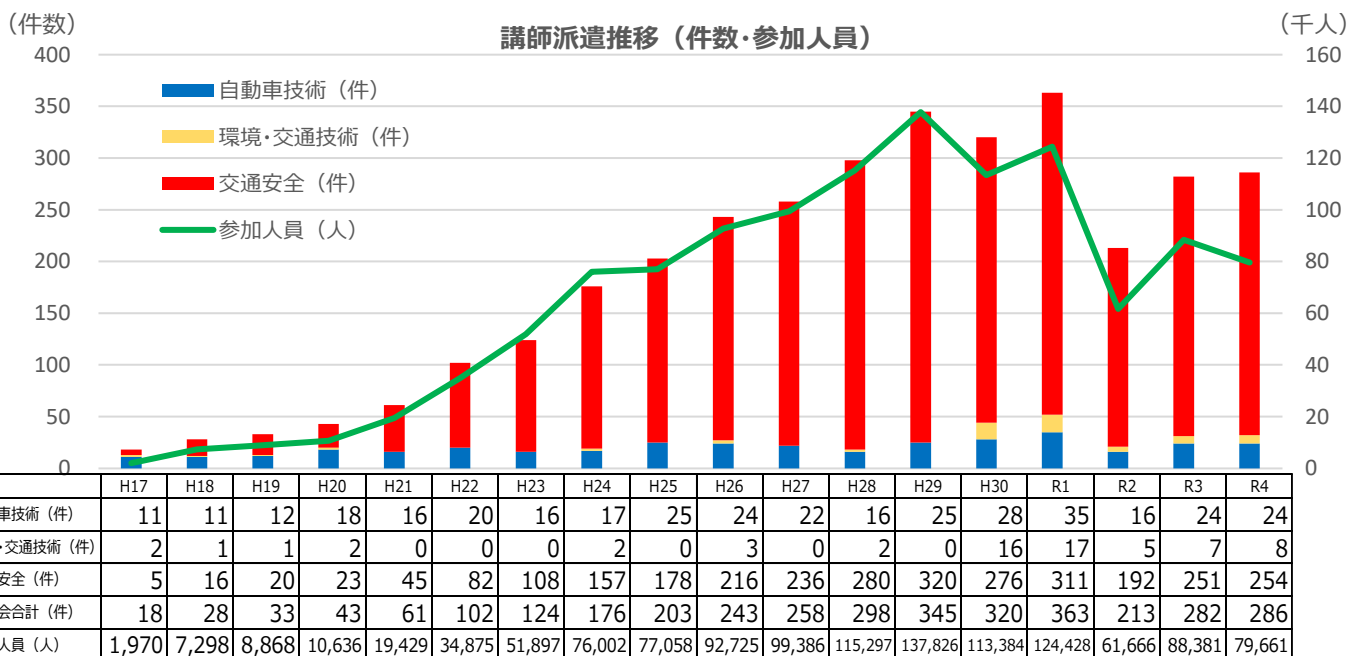
講師派遣にご協力いただいた関係団体・企業の皆様に紙面をお借りして深謝申し上げます。



▲沖縄県立沖縄ろう学校での講師派遣の様子



▲弘前東高等学校での講師派遣の様子



※平成17年度以降掲載

動画学習サイト「早わかり！クルマ塾」に15本のコンテンツ掲載 …… 1~3月

普及啓発

財団は動画学習サイト「早わかり！クルマ塾」にて、1月からの3か月間で合計15本のコンテンツを財団ホームページに掲載した。

“18歳成人”にも関わりが見込まれるクルマのサブスクリプションサービス（1本）の他、自動車の運転支援技術・電動化（計8本）、海外・国内調査報告（計5本）、および交通安全（1本）をテーマとした動画を制作した。

令和4年度は、当15本を含め合計20本のコンテンツを掲載した。本年度もコンテンツの充実により、自動車教育支援の更なる強化、クルマへの関心・理解向上を図っていく。（以下、動画タイトルに続く〈 〉は掲載日）。

▶ 「消費者としての高校生と交通社会〔3〕クルマも“サブスク”の時代へ」〈1/17〉

今年度のシリーズテーマ”18歳成人”の第3作。クルマのサブスクリプションサービスの仕組みや普及の背景などに加え、利用時の留意事項も紹介。



▶ 「人を見守る高度な運転支援技術 聴く編 第1回」 「同 第2回」〈1/24〉

ドライバーが体調急変などで運転できなくなった時にアシストを行う自動運転技術について、開発者インタビューをもとにイラストや画像を交え解説。



▶ 「人を見守る高度な運転支援技術 乗る編 第1回」 「同 第2回」〈1/31〉

上述技術を搭載した新型車の試乗レポート。当技術作動時の車内の状況、緊急停止の方法などを紹介。



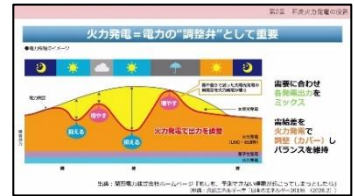
▶ 「自転車の交通違反 取り締まり強化へ」〈2/2〉

東京都での取り締まり強化の背景、今後注意すべき乗り方の解説と共に、自転車利用時のルール・マナー遵守に対する指導、注意喚起を促進。



▶ 「カーボンニュートラル社会において 石炭火力発電は不要か？」〈2/28〉

脱炭素社会の実現に重要な役割を担う石炭火力発電の現状や必要性について理解を深める内容。構成する4章をそれぞれ分割したコンテンツも同時公開。



▶ 「電気自動車から見る電動化社会 聴く編 第1回」 「同 第2回」〈3/7〉

電動化車両の普及促進が求められる理由、その普及による社会の変化など、電動化車両の開発者へのインタビューの様様を中心に紹介。



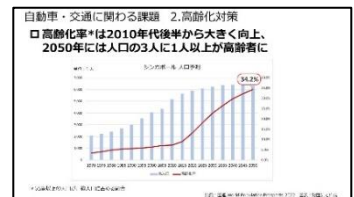
▶ 「電気自動車から見る電動化社会 乗る編 第1回」 「同 第2回」〈3/14〉

電動化車両の仕組みや特長について、新型車両の試乗の様様を交えながら解説。



▶ 「シンガポール現地調査報告 I.シンガポールの概要と交通課題」 「同 II.シンガポールの交通渋滞対策」〈3/20〉

昨秋実施した現地調査の報告動画。同国が抱える課題、最適な交通社会環境実現の為の取組を紹介。



▶ 「シンガポール現地調査報告 III.自動化・電動化への取り組み」 「同 IV.新たな販売形態」 自動車の自動販売機」〈3/24〉

シンガポールの高齢化対策・気候変動対策、及び同国ならではの新しいクルマの販売店の形を紹介。

